

# 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報

第32集

1995

宇治市教育委員会

# 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報

第 3 2 集

1 9 9 5

宇治市教育委員会

## 序

近年、宇治市では、宅地開発やマンション建設が急増しており、それに伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査が増加しています。

本書は、宇治市教育委員会が平成6年度に行いました、野神遺跡と井尻遺跡の緊急発掘調査の概要をまとめたものです。

野神遺跡の調査では、第1次調査に引き続いて中世墓を検出し、複数の中世墓があったことがわかりました。また井尻遺跡の調査は、巨椋池のほとりにおける初めての調査であります。

本書が多くの方々の目にふれ、広く宇治の歴史解明に役立つことを願うものです。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた開発業者の方々をはじめ、調査期間中ご協力をいただきました関係機関、ならびに各位に心よりお礼申し上げます。

平成7年6月

宇治市教育委員会

教育長 岩本昭造

## 例 言

- 1、本書は、宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第32集である。
- 2、本書が収録する調査は、平成6年度に本市教育委員会が開発事業にともない実施した発掘調査である。収録する調査は、下記の2件である。

番号	遺跡名称	調査地	調査原因	経費負担者	調査期間	調査面積
1	野神遺跡	宇治市宇治野神	宅地造成	平和住宅建設株式会社	平成6年12月	155㎡
2	井尻遺跡	宇治市伊勢田町井尻	共同住宅建設	大倉建設株式会社	平成7年3月	200㎡

- 3、本書が収録する発掘調査の組織は、下記のとおりである。

調査主体者	宇治市教育委員会					
調査責任者	宇治市教育委員会	教育長				岩本昭造
調査担当者	同	社会教育課	主事			杉本宏
	同	社会教育課	主事			荒川史
	同	社会教育課	主事			浜中邦弘
調査事務局	同		参事			池田正彦
	同	社会教育課	課長			堀井健一
	同	社会教育課	文化財保護係長			吉水利明
	同	社会教育課	主任			加藤きみ江
調査参加者	福島孝行・宮崎一弥・新井朋也・志村みどり					

- 4、本書の編集は、宇治市教育委員会社会教育課が行い、編集実務及び執筆を荒川が担当した。

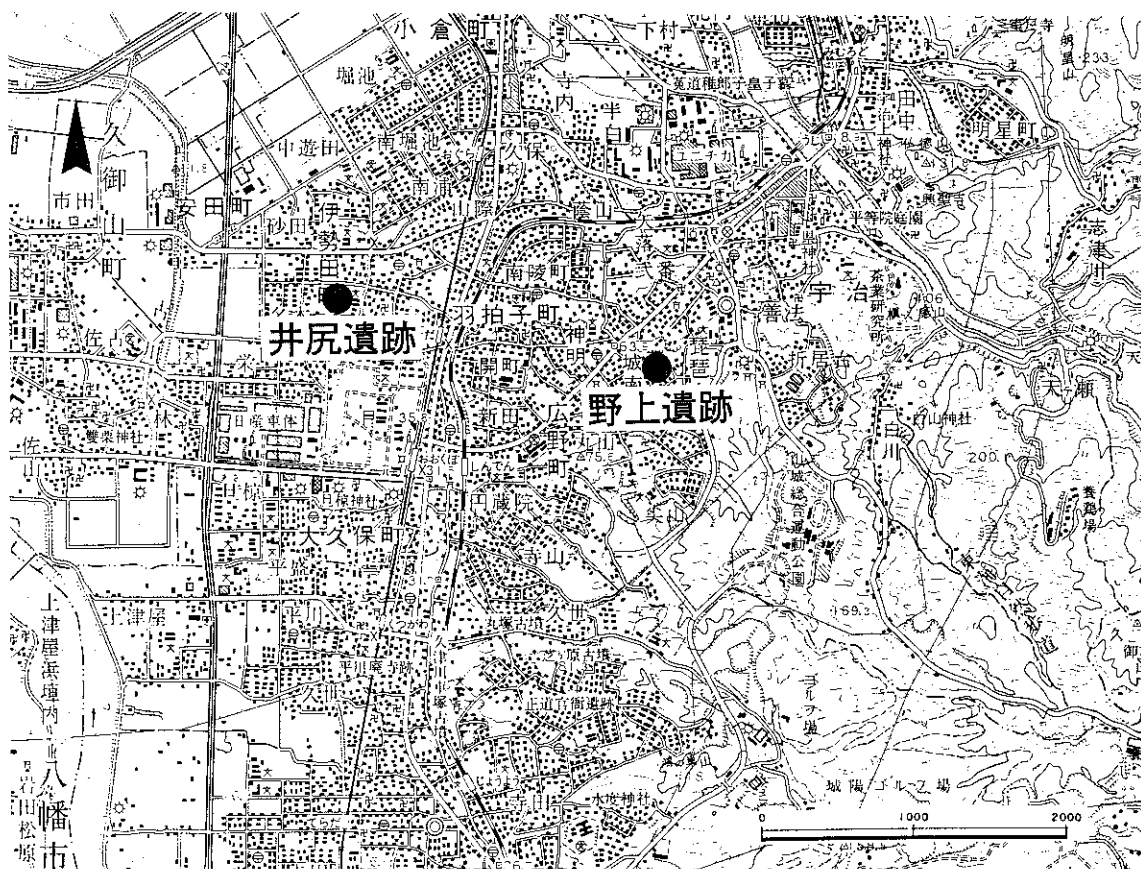
# 本文目次

## 1、野神遺跡発掘調査概要

(1) はじめに .....	1
(2) 検出遺構 .....	3
(3) 出土遺物 .....	8
(4) まとめ .....	8

## 2、井尻遺跡発掘調査概要

(1) はじめに .....	10
(2) 調査の概要 .....	12
(3) まとめ .....	15



野神遺跡・井尻遺跡位置図

# 1. 野神遺跡発掘調査概要

## (1) はじめに

野神遺跡の発掘調査は、宇治市宇治野神61-2番地において計画された共同住宅建設に伴う事前調査として行われた。

野神遺跡は、石鏃が多量に採集された遺跡として知られており、市内でも数少ない縄文から弥生時代にかけての遺跡である。また石鏃のほかにも、青磁片や瓦器・土師器なども採集されており、中世の遺構がある事も知られている。

野神遺跡の発掘調査は、平成5年度に今回の調査地の北西に隣接する地点で行っており、縄文・弥生時代の遺構の検出が期待されたが、土地の削平により中世墓1基・土壇・溝を検出したのみであった。今回の調査地は、石鏃が採集された畑であったが、前回の調査結果から判断して遺構が残っている可能性は少ないものと見て、試掘調査として開始した。

なお、調査は平成6年12月8日から12月21日まで行い、調査面積は155㎡である。



第1図 調査前の状況（南から）



第2図 調査地位置図 (1 : 2500)

## (2) 検出遺構

野神遺跡は標高72m前後の平坦な台地上にあり、この台地は北東に向かってやや傾斜している。本来はこの傾斜はもっと急なものであったと思われるが、耕作などの削平をかなり受けており、平坦化しているようである。調査地はこの台地の縁辺部にあたり、調査地の北及び東は急な斜面となっている。このため調査地からの眺望は、宇治の市街地から巨椋池に向かって開けている。

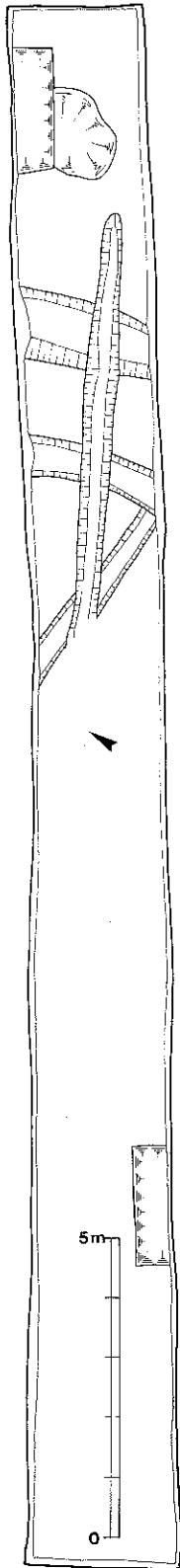
調査は当初遺構の有無を確認するため、南東から北西にかけてトレンチ（1トレンチ）を設定し、重機掘削を行った。その結果、トレンチの北東部で溝を確認したため、このトレンチの東側に直交するトレンチ（2トレンチ）を設定し、掘削を行った結果、東側の2トレンチで土壌を検出したため、さらに北東に拡張した。

調査地の基本的な土層は、1トレンチ西部では耕作土直下で赤褐色の地山層となるが、2トレンチの東部では、暗赤褐色粘質土の間層が入る。そして2トレンチ東端から、地山は徐々に落ちる傾向を示す。

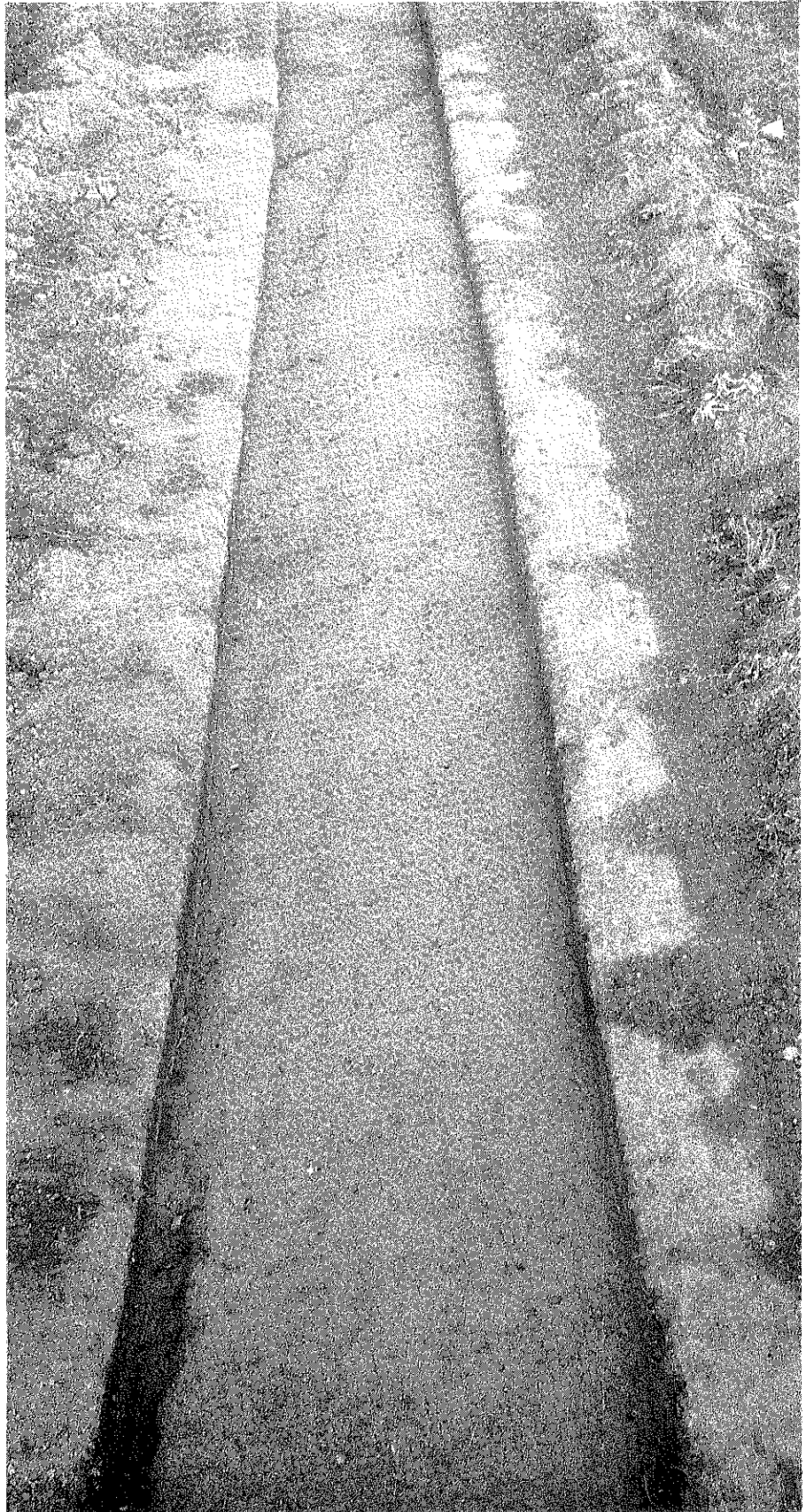


第3図 調査地全景（南西から）

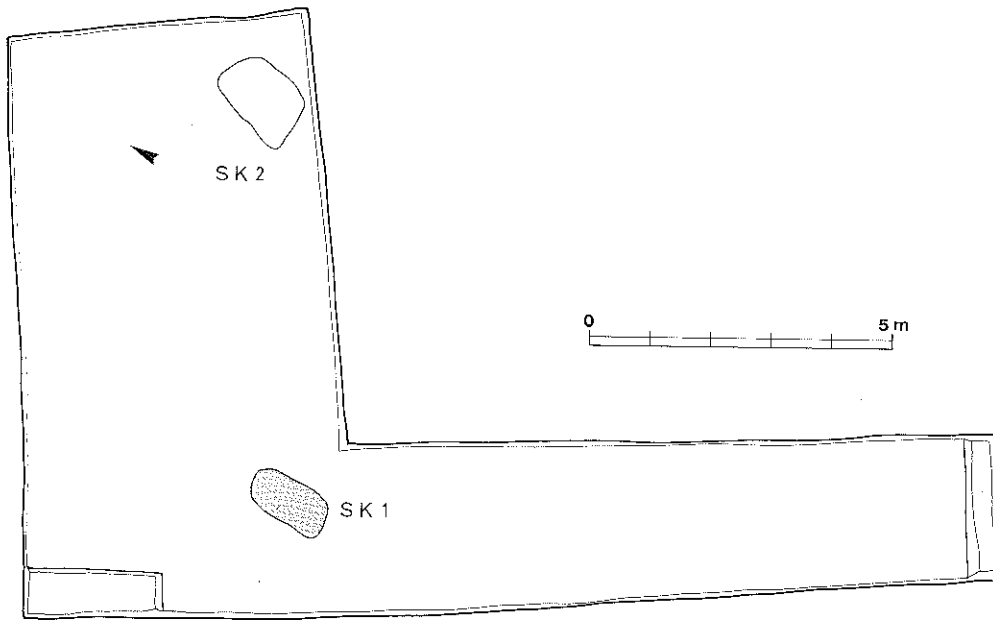




第4図 1トレンチ実測図



第5図 1トレンチ完掘状況 (南西から)



第6図 2トレンチ実測図



第7図 2トレンチ完掘状況（北から）

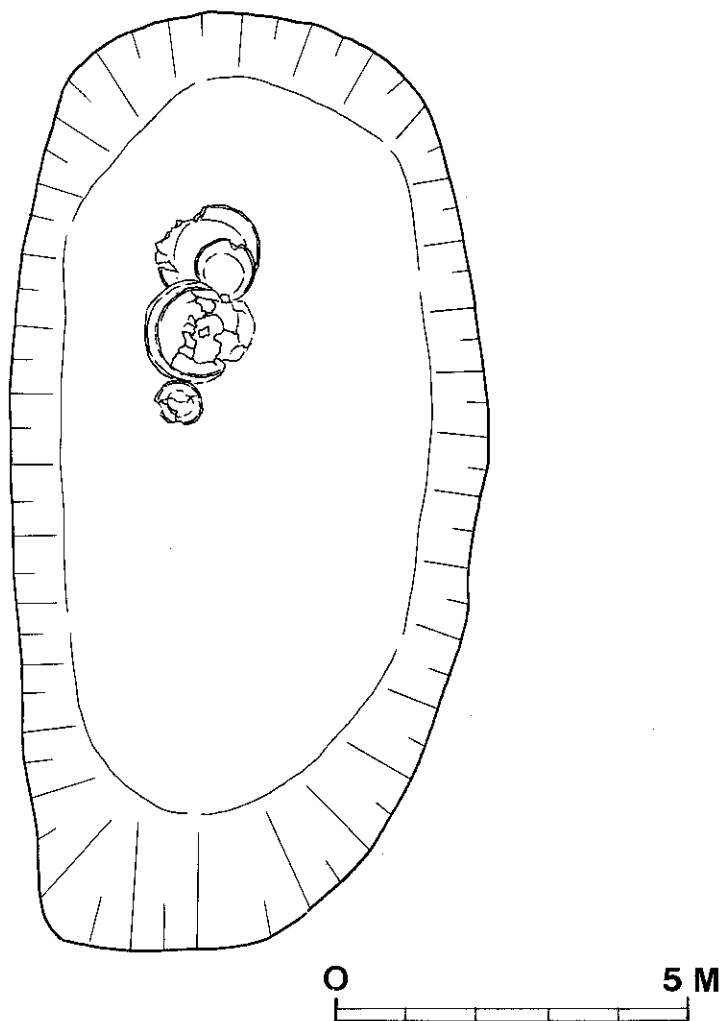
1 トレンチで検出した遺構には溝が4条ある。これらの溝には切り合い関係があり、東西方向の溝1条が最も古く、次に南北方向の溝2条、最後に北東から南西方向の溝となる。幅は10cmから30cmの細いもので、深さも最も深いところで17cmを測る浅い溝である。相対的に南北方向の溝がやや幅が広い。溝からの出土遺物は全く無く、時期・性格を特定する事はできないが、平成5年度に行った隣接地の調査でも同様の溝を検出しており、ここでは中世と考えられる土師器片が出土している。このことから判断すると、今回検出した溝も中世の可能性が高いものと思われる。

2 トレンチにおいては土壌2基を検出した。

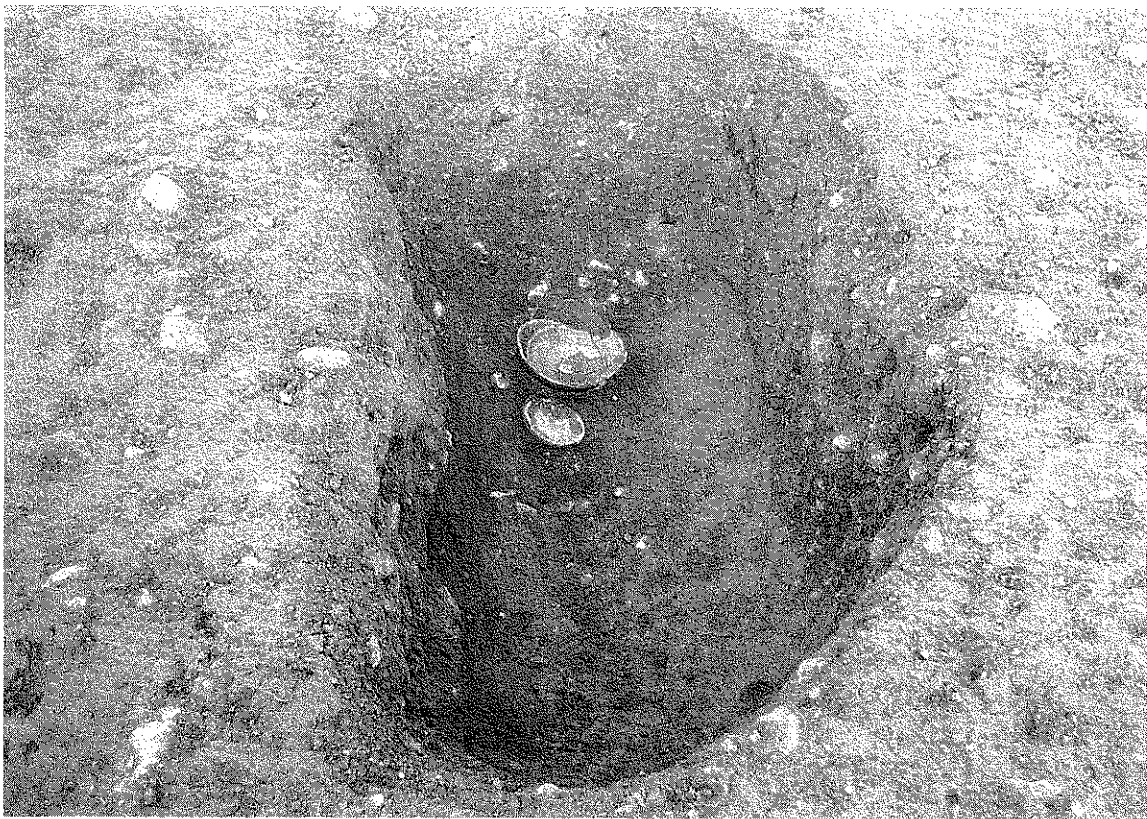
SK1は、ほぼ南北方向に長軸を持つ中世墓である。長さ1.33m、幅0.67m、深さ0.43mを測る。土壌の底面は、北端より南端がやや高く傾斜している。土壌の北よりの部分から瓦器椀1点、土師器の皿7点を検出している。土器はほぼ3列に置かれており、それは北側に土師器皿大1、小2、中央に瓦器椀1、土師器皿大1、小1、南側に土師器皿小2である。

土壌の時期は、出土した瓦器から、13世紀後半と考えられる。

SK2は、SK1の東で検出した土壌で、SK1と同様の長軸方向を持つ。長さ約1.5m、幅1m、深さ約0.3mを測る。土壌内から遺物は出土していないが、SK1と同様の方向をとることから判断すると、中世墓である可能性が高い。



第8図 中世墓 SK01 実測図



第9図 中世墓 SK01 全景 (南から)



第10図 中世墓 SK01 遺物出土状態

### (3) 出土遺物

今回の調査で出土遺物は、SK1から出土した遺物のみである。SK1からは、前述したとおり、瓦器1点、土師器7点が出土しているが、遺物の風化が著しく、6点を図示したにとどまった。

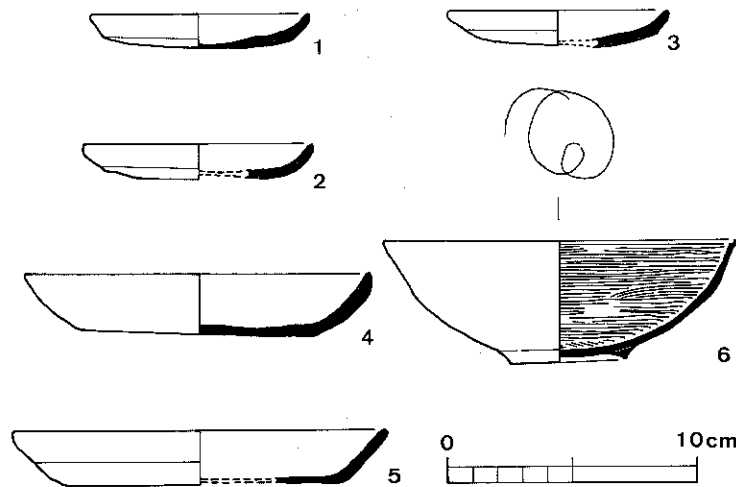
1～5は土師器の皿である。口径8.5～9cmの小型のもの(1～3)と口径13.5～14.5cmの大型のもの(4・5)の2種類がある。器高は、小皿が1.4cm、大皿が2.2～2.5cmである。

瓦器碗(6)は、断面三角形の高台を持ち、内面の見込みにはラセン状の暗文を持つ。

### (4) まとめ

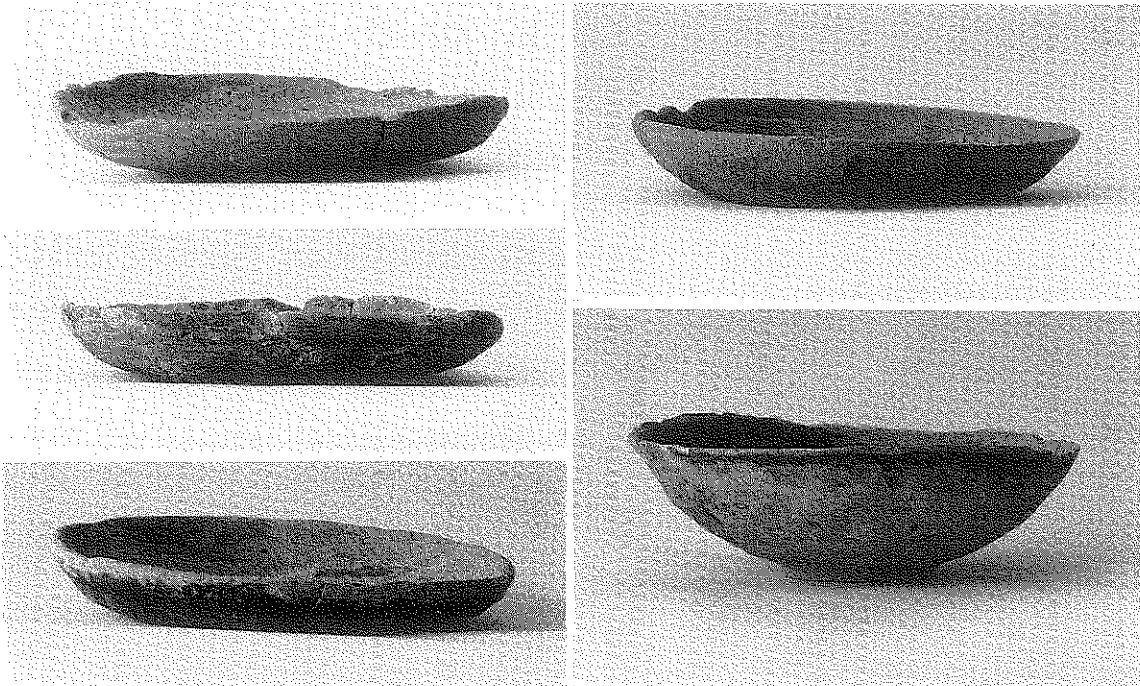
今回の調査では、前回の第1次調査に続いて中世墓を検出した。いずれも調査地東側の台地縁辺部での遺構検出であり、傾斜地にかかっていた遺構のみが削平を受けずに残っていたようである。また基数としては2基と、多いものではないが、過去に採集された遺物などから見ると、周辺には相当数の中世墓が存在していたものと思われる。第3図を見てもわかるように、調査地は宇治市街遺跡が見渡せる位置にあり、野神遺跡の中世墓群を宇治市街遺跡との関連でとらえたい。

宇治市街遺跡では、過去に8回の発掘調査と多数の試掘調査、立ち会い調査を行っているが、いずれも小面積のため、必ずしもその実態が明らかになっているとはいいがたい。しかし平安時代後期以降には町屋が形成され始め、中世にはほぼ全域に広がり、一定規模の「市街」を形成していたものと思われる。これに引き換え、墓地については宇治市街遺跡の南側



第11図 出土土器実測図

丘陵上にある善法古墓が確認されているのみである。宇治市街遺跡の広がりには比して、余りにも数が少ない。おそらく善法周辺においても今後中世墓の数は増加すると思われるが、それに加えて野神周辺も宇治市街遺跡の墓域として設定し得るのではないだろうか。



第 12 図 出土遺物

## 2. 井尻遺跡発掘調査概要

### (1) はじめに

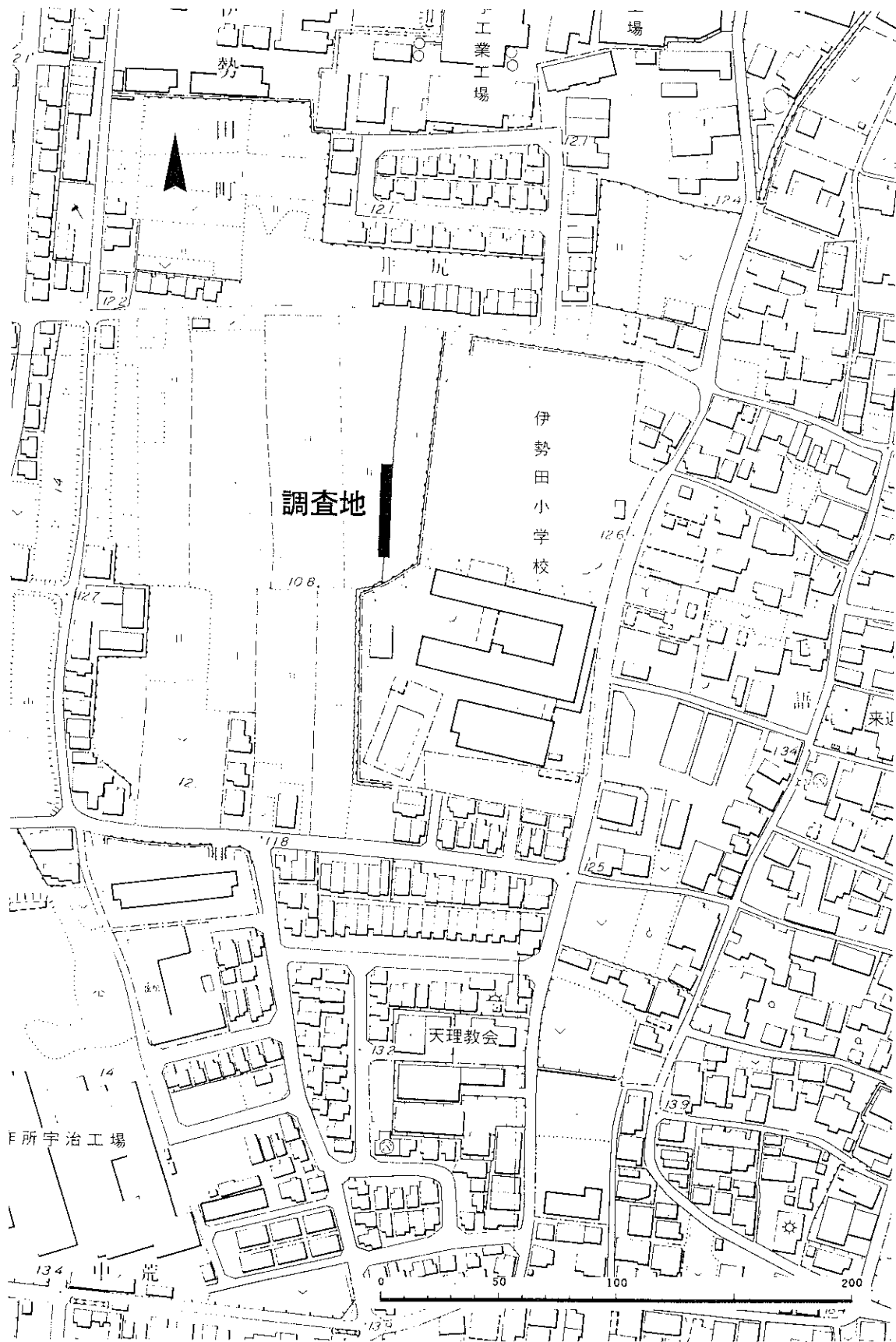
井尻遺跡の発掘調査は、宇治市伊勢田町井尻34-1番地において計画された、共同住宅建設に伴う事前調査として実施した。

井尻遺跡は、須恵器等の散布地として周知の埋蔵文化財包蔵地となっているが、これまで試掘調査及び立会調査しか行われていない。その中でも顕著な遺構・遺物は発見されていないため、遺跡の実態はよくわかっていない。今回の調査が、井尻遺跡の発掘調査としては初めてのものである。

井尻遺跡は、旧巨椋池のほとりに位置しており、調査地は干拓前の巨椋池の汀から約400m南の地点にあたる。調査は平成7年3月13日から3月31日まで行い、調査面積は約200㎡である。



第13図 調査前の状況



第14図 調査地位置図 (1 : 2500)

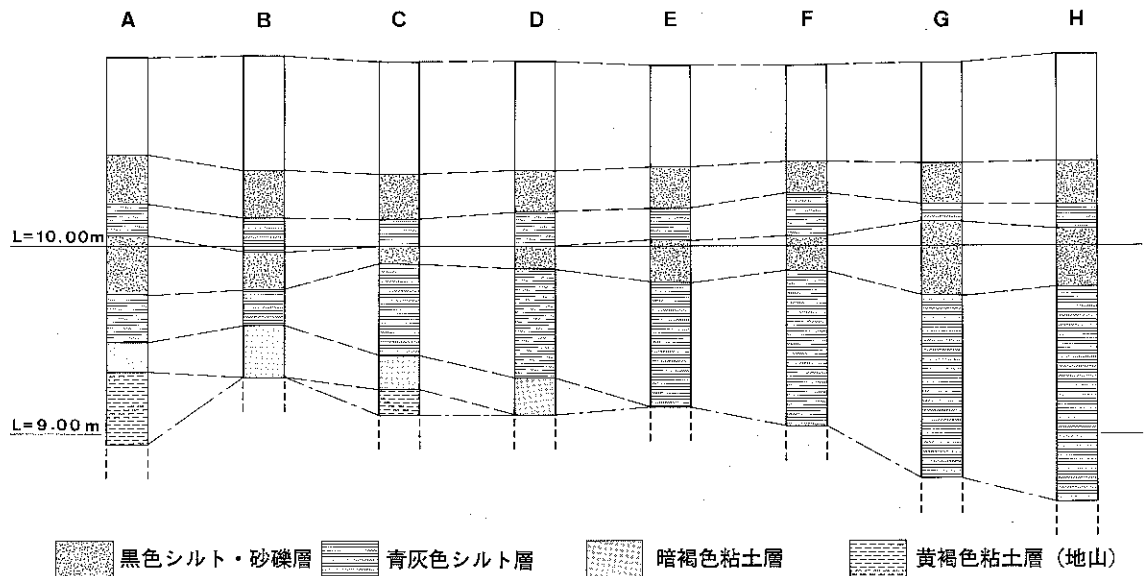


## (2) 調査の概要

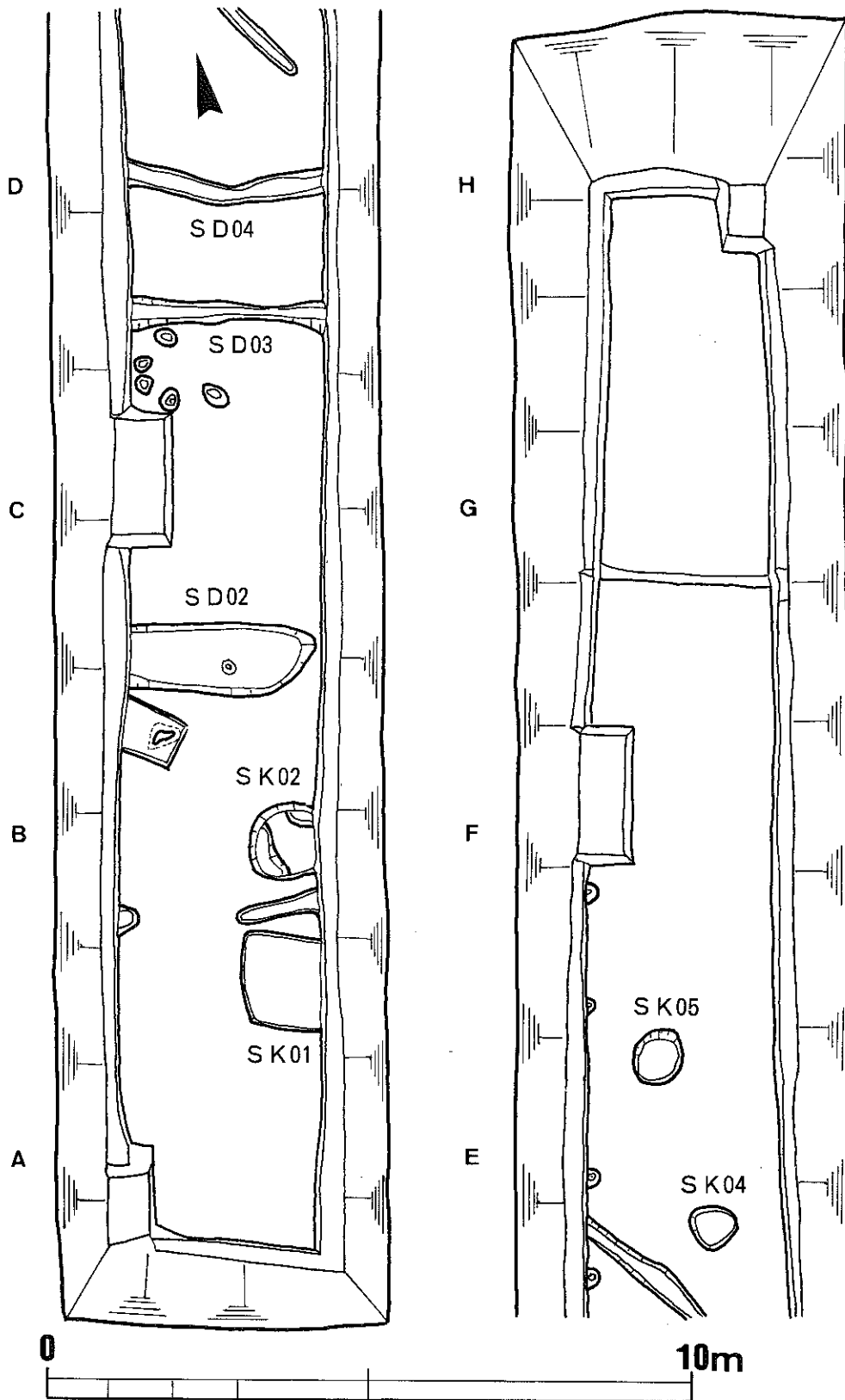
調査は、5 m×40mのトレンチを設定して行った。調査地における基本的な層序は、まず耕作土及び床土、須恵器などの遺物を包含する黒色シルト層・砂礫層と水田面と考えられる青灰色シルトを基調とした層の互層、暗褐色粘土層、黄褐色粘土層（地山）の大きく4層に分けられる。遺構は、下層にある暗褐色粘土層上面、黄褐色粘土層上面で検出しているが、この2層は北に向かって徐々に下がっていく様相を呈する。遺構面の標高は約9 m前後である。遺構面の上面にある青灰色シルト層は、トレンチ南半部では水平に堆積しているが、北半部では堆積の状況が乱れ、水田とは考えられない。

今回検出した遺構には、土壇・溝・ピットがある。土壇には方形のもの（S K01・03）と円形のもの（S K02・04・05）があるが、遺構内から遺物が出土していないため時期、性格ともに不明である。また溝・ピットからも遺物は全く出土しておらず、時期・性格を特定するには至らなかった。

今回の調査で出土した遺物は、すべて床土直下の黒色シルト層と砂礫層からである。時期は、弥生時代から近世に至るものである。時期の判別できるものを上げると、弥生時代後期と考えられる高杯、平安時代前期の須恵器杯蓋、中世以降の平瓦を砥石に転用したものなどである。その他には須恵器・土師器が主流を占める。遺物の多くが細片であり、また摩滅したものが多いが、一部に摩滅の少ない遺物も見られる。



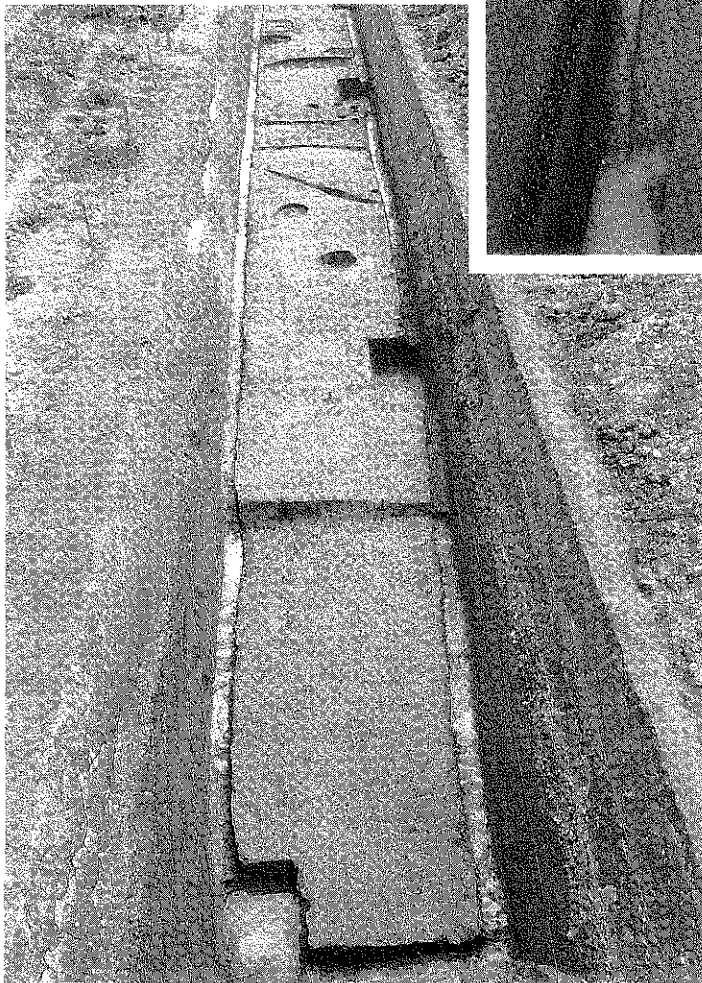
第15図 トレンチ断面柱状図



第 16 図 トレンチ平面図



第17図 トレンチ全景（南から）



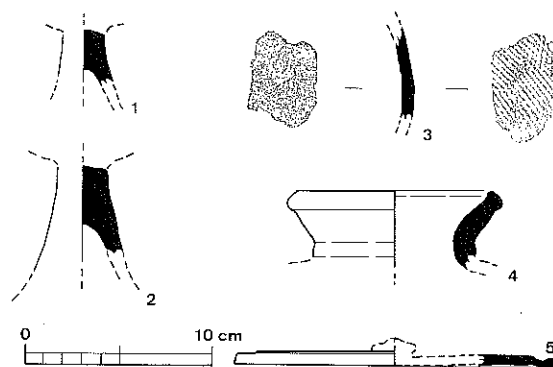
第18図 トレンチ全景（北から）

### (3) ま と め

今回の井尻遺跡の調査は、これまで行われた宇治市域の調査の中で、最も低地で行われたものとなる。調査地の現地表面は標高約11mであり、巨椋池干拓地内の水田面と1m前後の比高差しかない。今回の調査のポイントとしては、①水田遺構の検出、②巨椋池の汀線の位置の2点が考えられた。①の点に関しては、水田遺構は確認できたが、遺構の時期については確認できなかった。②については、予想以上に地山と考えられる暗褐色粘土層が高い位置で確認した事は特筆できる。土層の状況から判断すると、以降検出面が常時水に漬かっていたとは考えられず、巨椋池の汀線は調査地の北側にあったと判断できる。干拓時の巨椋池の汀線は、調査地の北約400mにあり、この付近に関しては干拓時の汀線と大きく違ってない可能性が考えられる。

また、水田遺構上層の堆積層からは、弥生時代から近世に至る遺物が出土している。これらの多くが摩滅を受けているが、一部にはほとんど摩滅していないものも見られる。このことから判断すると、付近に弥生時代から近世に至る遺跡が存在しているものと思われる。地形から判断すると、調査地は氾濫原の中に入り、調査地の西側に旧伊勢田村がある扇状地性の微高地がある。この微高地が古くから居住域として使われていたものと考えられる。

今回の井尻遺跡の調査は、巨椋池の池汀にもっとも近い場所で行われた調査である。巨椋池の実態については、まだわかっていないのが現状である。対岸の八幡市域では、今回地山面を検出した標高9mより低い地点で、弥生時代から古墳時代の集落を検出している。このことから判断すると、調査地付近にも集落が存在した可能性は否定できない。今回検出した時期不明の遺構もその一端を明らかにしたものかもしれない。今後の周辺の調査に期待したい。



第19図 出土土器実測図

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	うじしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	宇治市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名								
巻次	第32集							
シリーズ名	宇治市埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ番号	第32集							
編集者名	荒川 史							
編集機関	宇治市教育委員会							
所在地	〒611 京都府宇治市宇治琵琶33番地 TEL0774-22-3141							
発行年月日	平成7年6月30日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	市町村 コード	遺跡 番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
野神遺跡	宇治市宇治野神	262048	88	34° 52' 39"	135° 47' 49"	941208 ∩ 941221	155㎡	宅地造成
井尻遺跡	宇治市 伊勢田町井尻	262048	86	34° 52' 52"	135° 46' 20"	950313 ∩ 950331	200㎡	集合住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項		
野神遺跡	散布地	中世	中世墓2基、溝	土師器、瓦器				
井尻遺跡	散布地	弥生～近世	溝、土壇、ピット	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器類				

---

## 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報

第32集

発行日 平成7年6月30日

発行者 宇治市教育委員会  
宇治市宇治琵琶33番地

製作 有限会社 新進堂印刷所

---